

序

福生市教育委員会教育長 町田 倍 二

今年の四月から福生市文化財保護条例が制定され、また文化財専門委員会も正式に発足しましたが、それが福生の文化財行政の新しい飛躍をとげる年になり、こうした中で、文化財報告集第二集として『福生市の板碑』が発刊できることはたいへん意義あることと存じます。

福生は、中世に関する史料がほとんど残っておりません。しかし、昭和三十五年の町誌編纂を通して、当時福生市立第二小学校小野沢教諭によつてはじめて、市内の板碑の調査が行なわれ、その後、文化財専門委員の立川愛雄氏の調査を通して六十六基の板碑を発見できたことは福生市の歴史を探るための貴重な史料となりました。

板碑は、土地に密着した史料として、大変価値をもつものであり、六十六基の板碑の存在によつて空白だった中世福生をかすかですが明らかにすることとおもいます。

板碑の調査は、一つ一つの板碑について実地踏査が大切で、勤務の合い間に足で調べるのは大変だったと察します。今後一つ一つの板碑がよく保護され、研究に活用されなければならないと痛感しております。

最後に、この調査にあたって、情報や資料を提供してくれた市民の方々、板碑を所蔵或いは保管されていて種々便宜をはかってくれた方々に厚くお礼を申しあげると同時に、この報告書が、今後、中世の史料として、多くの市民によまれ、市の文化財保護に対する一役をはたせれば、幸いと存じます。

昭和四十九年三月三十一日

目次

一、序	1
二、福生の板碑について	1
三、板碑とは	2
四、福生市における板碑の年代推移	5
五、福生市現存板碑図録	7
六、福生市現存板碑集録	19
七、福生市板碑分布図	37
八、あとがき	39